

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取県立倉吉総合産業高等学校

重点項目	専門人材育成	提出日	令和4年4月22日
------	--------	-----	-----------

1 学校目標	
<p>将来職業人として地域で活躍し、地域に貢献できる人材を育成することを目標として、専門分野に関する学習や資格取得、部活動との両立、進路の実現等に日々努力している。また、地域との交流の中で、コミュニケーション能力や豊かな人間性の育成にも努めている。</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成する。 ・専門教育を推進することで、技能を高め、地元企業に求められる人材を育成する。 ・各分野に優れた知識や技能をもつ社会人講師・大学教員を活用することにより、生徒の学習意欲の向上を図り、職業観、勤労観を育成する。 ・専門的な知識、技能、職見を有す地域の社会人を講師として招聘し、ショップ経営のノウハウを身に付けさせ、ビジネスに必要な業務を、合理的に行う能力を育成する。 ・職業体験をとおして職業や将来設計について考えさせ、主体的な職業選択能力や職業意識を育成するとともに、挨拶・言葉遣い・礼儀・マナーなどを学びコミュニケーション能力を高める。また、地元企業を見学し、進路選択における判断材料とする。 ・地域と連携した課題研究を実施し、地域との関わり合いを持ちながら、社会の変化に対応できる企画能力や実践能力を育成する。 ・教員が実際に企業を訪問したり、企業で研修することで指導力向上を図る。 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年内就職内定 100% ・卒業1年後の離職率 8% 以下 ・技能検定機械加工普通旋盤作業3級 10名程度 ・第1種電気工事士 15名以上 ・全商簿記実務検定1級 20名以上 ・家庭科技術検定1級3種目合格 10名以上 ・推薦・一般入学者選抜おける各科の募集定員の充足 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、学校行事等が制約を受けた。オンラインや大きな教室を使用したりと、感染対策を施しながら実施できたものもあるが、いくつかの取組は中止にせざるを得なかった。その中、3日間のインターンシップの代替として、機械科では体験学習、電気科では1日就業体験、生活デザイン科では大学・短大訪問を実施した。 また、本校は専門高校であり、座学だけでなく、実習において多くの社会人講師をはじめ地域の力を借りながら人材育成を行ってきた。教職員だけでなく多くの地域専門人材が関わることで、生徒は進路意識や職業意識の高揚、そして地域の魅力認知等、大きな効果があったのは確かなことである。 一方、資格取得の実績については過年度と比して見劣りする結果となった。特に難易度の高い資格の多くは昨年度を下回った。 今後は各科の充実した外部人材等によって、刺激を受けた生徒が、より主体的に継続して資格取得に取り組むように資格取得のメリットを日常の授業等の中で生徒に伝えていきたい。 <p><数値結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年内内定率 100% ・卒業1年後の離職率 8.8% (5/57) ・技能検定機械加工普通旋盤作業3級 4名 ・第1種電気工事士 6名 ・全商簿記実務検定1級 15名 ・家庭科技術検定1級3種目合格 2名 ・推薦・一般入学者選抜おける各科の募集定員の充足 (不足数) <p>機械科5、電気科1、生活デザイン科3</p>

3 実施事業

【高等学校課事業】

●外部人財活用事業

- ・社会人講師活用事業（各科及び芸術科）

工業・調理・音楽などで優れた技能を持つ地域の人材を社会人講師として学校に招き、その技術や知識を学ぶ。

- ・県立高校・大学教員の教員交流事業（電気科）

鳥取大学工学部の教授等を講師に招き、大学で研究されている知見について学ぶ。

●キャリア塾

- ・進路講演会（各学年）

外部講師を招き、進学・就職に関する講演を行う。

- ・先輩に学ぶ

科ごとに社会で活躍する卒業生を招き、仕事に関する話やアドバイスを聞く。

【学校独自事業】

●進路指導充実事業

- ・資格取得の推進

資格取得関連の書籍や資格を生かした職業に関する書籍を図書館に整備し、広く生徒・教職員が学習に資する環境を整える。

●職業観の育成事業

- ・インターンシップの推進（機械科・電気科・生活デザイン科）→ 中止

2年生が3日間の職場体験を行い、進路目標をより明確なものにするもの。中止にはなったが、電気科の1日職場体験などそれに代替する取組を実施した。（機械科はJAFによる救援業務体験学習、電気科は1日就業体験、生活デザイン科は鳥取看護大学、鳥取短期大学訪問）

- ・インターンシップ（ビジネス実習）の推進（ビジネス科）→12月に2年生のみ5日間実施した。

2年生は夏・冬の2回の計10日間、1年生は冬に3日間の職場体験を行い、進路目標をより明確なものにするとともに、人間面での成長を図る。

- ・長期インターンシップの推進（電気科）→ 中止

電気科2年生の希望者が、知識と技術の習得を目的とし、夏季休業中に約10日間の現場実習を行う。

- ・地元企業を知る企業見学

機械科と生活デザイン科の生徒が、進路選択の幅を広げることを主たる目的とし、地元企業を見学し産業現場の具体的状況を知る。

- ・地元企業を知る企業招聘事業

複数の地元企業を本校に招聘し直接担当者に話を聞くことで地元企業の状況を知り、各企業が求める人材の把握に努め、進路選択に資する。

- ・県外企業研修 → 中止（研修旅行は県内日帰り）

2年生の研修旅行で科ごとに企業を訪問し、地域産業と世界のつながりを理解する。

- ・安全教育

県労働基準協会から講師を招き、安全衛生管理について学ぶ。従来、7月のインターンシップ前に事前研修として行っていたが、昨年度はインターンシップと切り離して実施した。

●地域との交流支援事業 → 規模を縮小（回数を限定）して実施

- ・チャレンジショップ「くらそうや」、「くらそうサロン」、「くらそうビジネスセミナー」

ビジネス科3年生が3つのグループに分かれ、課題研究の時間を使って、「商品の仕入れ・販売」「高齢者との交流」「学校行事カレンダーの作成及び中学生体験入学での模擬授業（R3年度は実施せず。）」等を行う。地域との交流を深めるとともに対応力を養う。

●福祉活動支援事業

・高齢者家庭との交流

3年間学んだ知識と技術を地域の高齢者宅での電気器具の修理や清掃に活かしながら、高齢者とコミュニケーションを行うことで、現在における福祉についての問題点や改善点を把握する。「応用・総合学習の実践という位置づけをとおして生徒の達成感及び学習意欲の向上につなげる。

・空飛ぶ車いすの活動

日本で不要になった車いすを高校生が学校で学んだ知識と技術を駆使して修理し、需要のあるアジアの国へ届ける活動。「ものの大切さ」「奉仕の精神」等を学ぶ。

・福祉施設体験活動の充実 → 一部オンライン形式で実施

高齢者施設、介護施設、保育園等の福祉施設との交流やレクリエーションをとおして正しい倫理観・道徳観などのものの見方考え方を知り、思いやりの精神や誠実で心豊かな人間性を育てる。

●スクールプロジェクト

・課題研究発表会の充実 → 各科の発表会は実施、全体会は中止

各学科の発表会に大学教授や有識者を招聘し、指導助言を享受することで生徒の意識の向上と教員の指導力を高める。

●ものづくり支援事業

・マイコンカーの製作 → 全国大会中止

全国大会を目指しながら、計画的に物事を進める力を身につける。

・普通旋盤作業における技能指導 → 全体における講義及び技術指導は中止

技能士の指導を受けながら、技能検定3級の合格を目指す。

・電気工事についての技能指導

電業協会中部支部の指導を受けながら、ものづくりコンテスト県大会・中国大会での好成績を目指す。

4 総合所見（成果・評価）

外部人材を活用することの効用は大きい。また、学校から地域に出かけ、コミュニケーションを取りながら人から学んだり、最先端の設備に触れながら、新しい発見や知見を得ることは極めて意味あることである。実際に生徒はそのような場面で生き生きとした姿を見せ、成長の端緒となっている。その点では、取組の一つでも中止にしたり、規模縮小で実施することは避けたい。今年度中止したものは何れも本意ではないものであるが、特に2年連続で中止にした全科でのインターンシップはその効果が大きいことが期待されていたので、非常に残念であった。次年度は何とか実施できることを強く望む。ただ、この2、3年で新型コロナウイルス感染症の影響は避けられないことと認識せざるを得ず、オンラインやICT機器をうまく活用して、これまでと同等かそれ以上の効果を上げる手立てを考える必要が生じている。令和3年度もオンラインの活用を行ってきたが、今後は学校全体でオンラインの利用を促進しながらもオンラインで出来ることと出来ないものを整理して、ハイブリッドで展開することも必要になってくるのではないかと考える。

※枚数任意